

令和4年度第3回 川崎市社会教育員会議幸市民館専門部会 摘録

日 時 令和4年12月21日(水) 午後2時～午後4時

場 所 幸市民館 第1会議室

出席者 浦山委員、松井委員、梅原委員、大塚委員、夏井委員、片岡委員

欠席者 平井委員、小泉委員

事務局 加藤幸市民館長、鈴木日吉分館長、松本社会教育振興係長、青木管理担当職員

1 開 会

2 館長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議 事

(1) 前回専門部会の摘録について【資料1】

片岡委員 摘録はいつ公開されるのか。

事務局 摘録をさらに要約したものを教育委員会に提出している。社会教育委員会議で資料として用いる。摘録は情報公開の請求があればその際には公開される。

浦山議長 情報公開は条例に沿った対応が必要であるため、それが具体的にどうなっているのかは確認が必要。

片岡委員 専門部会がどこで行われるのかをネットで検索しても見つけられなかった。委員でさえそうなので、市民は専門部会の情報を得られないのではないかと。傍聴がないのもそのためではないか。市民にはどのように情報が伝わっているのか。

夏井委員 市の審議会などに情報は出されているはず。

事務局 確認する。

浦山議長 こちらも条例に沿った対応が必要。どのように行われているか確認をお願いしたい。

(2) 管理運営・実施状況等について

事務局から【資料2】に基づいて説明

【質疑応答】

片岡委員 工事に至るプロセスが知りたい。利用者に指摘された場合、点検で工事の必要性が発覚する場合、職員が気付く場合などあると思う。こういったパターンが多いのか。

事務局 各工事で様々。例えば今回のトイレの工事などは、利用者からの指摘を教育委員会に報告し予算がついたもの。客席の座面工事などは毎年予算を計上し定期的に行っているもの。LANの工事は利便性の向上のため教育委員会から話を受けたもの。調光設備やスプリンクラーは点検で工事の必要性が見つかったも

の。

片岡委員 話を聞いた印象としては利用者に言われる前に事前に対応できているように思えるが、どうか。

事務局 大きなトラブルになる前に動きたいと思っている。

(3) 社会教育振興事業について

ア 幸市民館社会教育振興事業

イ 日吉分館社会教育振興事業

いずれも事務局から【資料3-1】、【資料3-2】に基づいて説明

【質疑応答】

大塚委員 事務局からの説明を1点訂正する。市民館ジャックの参加者は1500人ほど。

松井委員 日吉のネットワーク新聞は分館だより等と比較してもかなり質のいい印刷物になっており、費用も掛かっているように思う。こういった料金体系をとっているのか。

事務局 この事業は委託事業となっている。事業として計上している経費の中から、実行委員会が印刷を発注している。

梅原委員 PTA活動研修について、Zoom参加人数といった記載があるが、Zoomを使用する際のWi-Fiの繋がり具合はどうか。

事務局 不安定なこともある。市民館の第1会議室であれば有線のケーブルで接続できるため安定する。

浦山議長 大会議室を使う場合などは市民館のWi-Fiでは不安定であるため、モバイルWi-Fiを持ち込んで実施したりする。施設のWi-Fiの環境が良くなればモバイルWi-Fiよりも速くなると思うので、持ち込む必要はなくなると思うが。

大塚委員 青少年教室事業「謎走中」について、当日の高校生ボランティアが3名とあるが、その前にも受け入れがあったと聞いているがどうか。

事務局 高校生のインターンを受け入れている。6名のエントリーがあったが、コロナ等により参加が2名となった。インターンの学生でグループワークをする予定で多く募集していたがそれが叶わず、市民館職員と一緒に考える形をとった。3日間での実施。

大塚委員 当日参加した3名の高校生ボランティアはインターンに参加していた学生か。

事務局 全員別の学生。インターンを受け入れたのは幸高校の学生だが、機会を平等にしたいという高校側の意向によりインターン生を直接当日の活動に呼ぶのではなく、他の学生も含めて改めて全生徒からボランティアを募集するという形となった。総合科学高校にも同様に募集をしたところ、結果的に当日のボランティアとして集まった3名はいずれも総合科学高校の学生だった。この3名はかなりモチベーションが高く、当日の参加だけではなく、シナリオ作成やイベントの

ブラッシュアップのための事前ミーティングにも数度に亘り参加してくれた。

大塚委員 今後も今回のインターンのように小・中・高校生が企画運営に参加する形を続けていくのか。

事務局 現在「謎走中」は全市展開ができないか検討中。そこに関連して謎の作成や謎解きをテーマに講座を開催し、そこに近隣の学生サークル等の協力を得るといった構想がある。その講座の参加者が企画運営をする、各区でそれぞれ行った謎解きが全市開催で活きる仕掛けを考えるなど、実施の方法を模索している。高校生のインターンについても、エントリーが可能であれば今後も行っていく。

大塚委員 イベントそのものは実施ができると思う。その上で、謎解きを別に考える等といった場面で小・中・高校生をいかに巻き込んでいけるか。当日参加するだけではそこで終わってしまう。青少年教室事業として、イベントを作り上げるステップを大切に考えて青少年世代に関わってほしい。

もう1点質問だが、コミュニティ推進事業において市民活動と繋がっていきそうなものはあるか。

事務局 寺子屋などはそういった雰囲気がある。町内会等で希望があるものがあれば、コミュニティ推進事業の提案者を市民講師として紹介し、地域で活躍ができるのではないかと考えている。

大塚委員 市民から市民活動と繋がるような提案をすることはなかなか難しそうか。

事務局 町内会等からはエントリーはしたいのだが、コロナで1カ所に人を集めづらといった話が出ており、そういった難しさはある。コミュニティ推進事業としては、地域活動に参加できる方をどんどん増やしていくことを目指し、コロナが落ち着いて地域活動が活発になっていけばそこでマッチングしていくのではないかと考えている。コミュニティ推進事業の提案者に対しては、後に出張講座等に繋げていけないかといった話をしているが、概ね感触としては悪くない。

夏井委員 感想になってしまうが、日吉分館の地域コミュニティー交流・学習事業の日吉あそびっ子クラブについて、以前参加されていた方々が中高生になってボランティアとして参加しているのがとても良い事例だと思う。継続することでさらに広がっていくのでは。

幸市民館の青少年教室事業について、様々なところと共催で行っていて広がりが出てそんな印象。大塚委員からも話があったように、準備段階から子どもたちを巻き込むことはとても大事なことだと思う。それに合わせて、大人がどう子どもたちを見ていくか、大人も市民館への参加に結びつくような形で実施していければ良い。また、市民館ジャックに参加したのだが、小さな子どもを連れてくる親御さんや小学生・中学生のボランティアもたくさんいた。そういったところもどんどん広がっていくと良い。コミュニティ推進事業の方々も活躍の場があるとどんどん広がっていけると思う。

片岡委員 親からの情報提供も大事だが、学校の先生たちが持っている情報も重要だと考えている。学校の先生との話し合いの場をもっとたくさん行っていけると良い。学校のニーズに配慮した市民館運営や、反対に市民館から学校に対して期待すること等、話し合いの場を持つことで考えられることがあると思う。学校の先生から市民館の話が出ないと子どもたちも市民館に興味を持つ切っ掛けがない。学校との連携をもっと密にしていくことを提案したい。

もう 1 点の提案として、アクティブな学習をもっと広めてもらいたい。例えば動画クリエイター入門講座やボランティア入門講座のような講座では、学びの場だけではなく、活動の舞台を提供するところまで行わないとせっかくの学びがもったいないように感じる。アクティブな講座の録画や記録を取ることで、これからはもっと市民に任せてもいいことがあるのではないかと。スキルと実践を繋げるような仕組み、講座と講座のコラボを上手く作っていくような構想も必要ではないかと考える。

福田市長のポスターにある「最幸のまち」というフレーズに感銘を受けたが、市民館でもタイトルに「幸」の字を当てた講座が開催されていて、市民館の考え方も柔軟になってきているのだなと感じた。このような「幸」をもっとアピールできるような言葉の遊びを作ったり、市民から募ってみたりしても面白いのではないかと。親しみが湧くと思う。

最後にこれから期待していることとして、高齢者を対象にした公民館の取り組みについてももっと考えていければ。関心を持つ人は多いと思う。

浦山議長 「幸」の言葉遊び、キーワードなどを用いて、市民館のベースになるようなものを分かりやすく据えていくのは良い考え。日吉分館はこども文化センターのニュースと一緒に掲載しているが、これはとても良いと思う。いろいろなところと繋がっていかなくてはならない。

日吉は 1 小 1 中で面白い活動をしている。一緒にやったらもっと面白い企画も出てくるかもしれない。いろいろなことにトライしてもらえれば。

事務局 前回、社会教育の仕事の切り分けが分からないという質問をいただいていた。大きく分けると 2 つの立場で仕事をしており、1 つは教育委員会の立場で実施している社会教育振興事業、もう 1 つが区役所職員の立場で実施している地域課題対応事業である。地域課題対応事業は今年度 3 つ実施しており、「外国に繋がる子どもの学習サポート事業」「幸区多文化共生推進事業」「幸区コミュニティ推進事業」の 3 つは区役所職員の立場で行っている。それ以外の全てが社会教育振興事業となっている。

(4) 審議テーマについて

浦山議長から【資料 4】に基づいて説明

各委員から【別添資料】の審議テーマ案について説明

【質疑応答】

梅原委員 夢を実現する、夢をかたちにするといった文言が入ると希望が湧いてくるかなと思う。

浦山議長 みなさんの案は似た思いを持っていると思う。表現としてどうするか。市民自主企画事業や指定管理者制度に対して望むことなど具体的な内容は、審議の中の一要素として議論していくという形でも良いのではないか。乱暴ではあるが、一案として片岡委員の審議テーマ案と夏井委員のサブタイトル案をくっつけるのはどうか。

大塚委員 良いと思う。

梅原委員 これまで幸区というネーミングについてしっかり考えたことがなかった。しかし先ほど出た市長の「最幸」という表現を聞いて、幸市民が「幸せ」をイメージできるようなタイトルが良いと考えるようになった。

浦山議長 賛成をいただいた先ほどの案だと、審議テーマ案・サブタイトルともに「つながり」という文言が入っている。ここをどうするか。思いとしては同じなので、表現の問題だけであるが。

夏井委員 キーワードとして「夢」という言葉が良いという梅原委員の話もあった。審議テーマ案の「つながり」を「夢」という言葉に置き換えてみてはどうか。

大塚委員 「地域に笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」ということか。とても良いと思う。

夏井委員 「地域に」という表現は固すぎるか。

浦山議長 サブタイトルに「地域」という言葉がある。審議テーマ案からは「地域に」を抜いてしまえばサブタイトルもそのまま入るので良いのでは。審議テーマを「笑顔と多様な夢を育む学び舎を目指して」、サブタイトルを「人・つながり・地域づくりを進める幸市民館」ということで決定としたい。

5 その他

次回と次々回の日程調整を行い、以下の通り決定した。

次回日程について、令和5年2月5日（日）午後1時（幸市民館 第1会議室）

次々回日程について、令和5年6月29日（木）午後2時（幸市民館 第1会議室）

次々回については市民自主事業の追加募集等が入るようであれば午後1時からとさせていただきます。

夏井委員 次回の会議では市民自主の審査もあるとは思うのだが、今回決定した審議テーマについて話を詰めていく時間がどの程度取れるものなのか。

大塚委員　あまり時間は取れないと思う。

夏井委員　次回あまり話ができないとなると、次々回は6月となってしまう。このテーマで話めていきたい内容を箇条書きでもいいので予め出しておく方が良いのではないか。

浦山議長　今日の審議テーマとサブタイトルを書いて、その下に皆さんから話めていきたい、深めたい内容を出してもらうようにしたい。どのような様式にするか考えて、事務局を通して共有する。今まで松下管理担当係長に提出していたものはそのままでよい。

事務局　それでよい。

大塚委員　前回の議事録を見ると、「今後は委員のみでメールのやり取りをしていただければいい」、とあるが。

浦山議長　確かにそういった話があった。どのようにするか。事務局が絡んだ方が良いとは思うがどうか。

夏井委員　事務局と共有できていた方が良いと思う。

大塚委員　皆さんがそれで良ければ特に問題はない。議論をする段階になれば直接やり取りをしても良いのでは。

夏井委員　もう1点だが、今回添付されている資料で触れられていないものがあるが、何か説明するためのものか。どういった理由で配られたものか。

事務局　確認できていなかった。申し訳ない。

夏井委員　配る意図を事務局側で把握できていないと、これを受け取る委員もどう受け取っていいか分からない。また、パブリックコメントの中に幸市民館が名指しされているものがあり、前回の会議の中で事務局が調べておくといった話になっていたと思うが、どうか。

事務局　教育委員会に確認を取ったが、当時のことを覚えている方がおらず確実な回答が用意できなかった。そのためあくまで情報提供があった中から分かる範囲での回答だが、2015年に幸市民館が提案した平和人権学習において教育に政治的要素のある発言を持ち込んでしまう恐れがあり、その件が事の発端であったと思われるが、確かではない。

6 閉 会